

令和3年度 横浜市

「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト

表彰事業所 事例集

目次

【表彰事業所】

○地域密着型通所介護

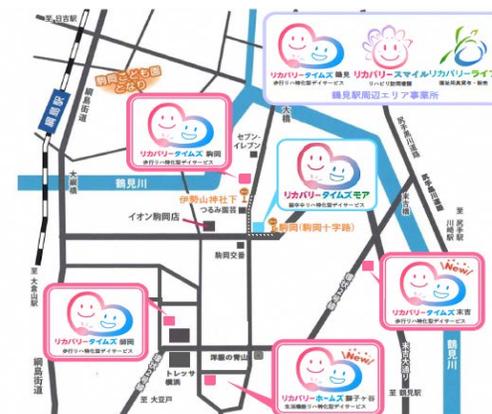
リハビリータイムズ駒岡	3ページ
リハビリータイムズ末吉	10ページ
リハビリータイムズ鶴見	16ページ
リハビリータイムズ師岡	24ページ
Reha Style アン フルール	31ページ
生活維持向上倶楽部「扉」	42ページ

○認知症対応型通所介護

瑞穂の大地デイサービスセンター	53ページ
デイサービスセンター真珠の詩	59ページ
横浜市川井地域ケアプラザ	65ページ
横浜市城郷小机地域ケアプラザ	72ページ
横浜市小菅ヶ谷地域ケアプラザ	78ページ
デイサービスふるさと萩丸	85ページ

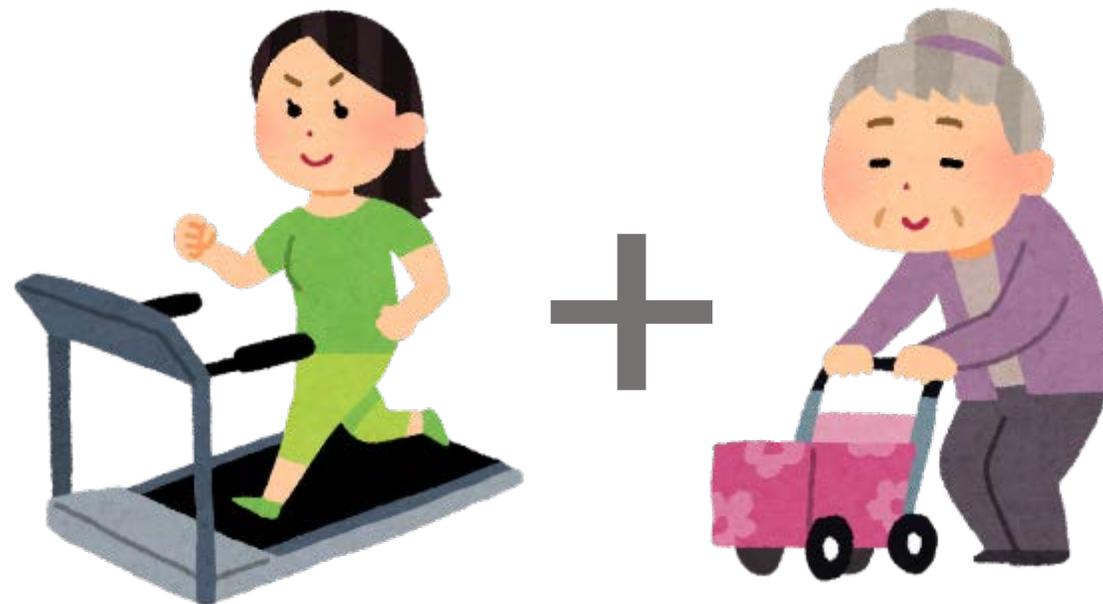
基本情報

法人名	株式会社リカバリータイムズ
事業所所在地	鶴見区駒岡5-15-32 ラピスヒルズ102号 (綱島駅より 5番乗り場 東急バス 日93系統 日吉駅東口行「伊勢山神社下」下車、徒歩1分)
開所日	H25.8.1
定員	15名
サービス提供日・時間	月～土(12/30～1/3及び4・9月の第1営業日(平日)は休業) 午前部9:50～12:55 午後部14:10～17:15
事業所の見学	利用者の見学は随時受付。他事業所からの見学も歓迎します。 事前にお問い合わせください。(担当:大澤 045-642-4820)
特徴	歩行に特化した機能訓練を行っています。ご利用者の意思を踏まえながら、無理のない範囲で目標を立て、専門職の目線から必要な機能訓練を柔軟に選択しています。 また、社会復帰や地域活動の意欲が高い場合の「卒業(デイサービス利用の自主的終了)を視野に入れたサービス計画」により、目標達成に対するご利用者、事業所双方の意欲を高めています。



【今回紹介させていただく事例】

- 当施設には**100歳**になられる元気な女性が通っていらっしゃいます。
- この世の酸いも甘いも噛み分けて来られた方ではありますが、当施設で1つの**新たな挑戦**をしていただくことができました。
- それは「ルームランナーで歩行練習」です。
- 「ルームランナーで歩行練習」は、100歳の方にとっては様々な障壁があります。
- しかし、専門職の評価によって安全に挑戦することができました。





リカバリータイムズ駒岡



【ご利用者情報：令和3年9月現在】

大正10年生まれ

要支援 2

当施設利用は6年目

生活状況

料理が非常に上手。現在も
ご自身で料理を作られます。
屋外歩行はシルバーカー利用。

ご本人の希望

転ばないようにして、
サークルに参加し続けたい。

現病歴

変形性脊椎症

腰椎すべり症

骨粗しょう症

心不全

既往歴

大腸がん切除後

腸ヘルニア

【ご利用の様子】

通われる様子

長距離はシルバーカーを利用して歩かれます。

室内程度であれば、シルバーカーなしでも安全に歩行可能。

交流の様子

男女や年齢関係なくどなたとも積極的に交流されます。
50歳代男性と料理のレシピ交換もされます！

機能訓練の様子※すべて作業療法士の評価と選定を実施

各種マシン運動

リハ職による機能訓練

日常生活動作を拡大する訓練





リカバリータイムズ駒岡



【ルームランナーに挑戦！！】

6年前には歩行時の下肢疼痛があり、長距離の歩行は苦手意識を持っていました。

施設内の設備においても、おおむねのものは実施されていましたが、ルームランナーは使用したことがありませんでした。

ですが、この6年で身体機能が安定してきたことや外出も安全に行えていることを知っていた介護福祉士のスタッフが、その方が今までやったことのないルームランナーでの歩行練習を提案いたしました。

すると、ご本人は「じつは気にはなっていたのよ」とのことでした！

そこで急遽、その日の運動予定を変更して、理学療法士の評価と見守りのもとで、ルームランナーを始めました。

5分を終えたときには笑顔で

「出来たわね😊」

とのお言葉をいただきました。

【現在の様子：令和4年3月】

ルームランナーでの運動は現在も続いており、10分間連続して実施することが出来るようになりました。

時折、現病の増悪により体調を崩しデイサービスをお休みされることもあります。

しかし体調が戻ればすぐにご利用を再開されます。

そして現在でもケアプラザの料理サークルに歩行器とバスを利用し、休みなく参加されています。





リカバリータイムズ駒岡



お体に不自由のあるご高齢の方々に
とって、体を動かして新たな挑戦をす
るということは極端に少なくなってい
まいます。

その原因には、身体機能低下や後遺
症によって「できなくなる」と思っ
てしまうことでしょう。

しかし、専門職が適切に評価を行え
ば「こうすればできる」と
いう方法を見つけることができます。

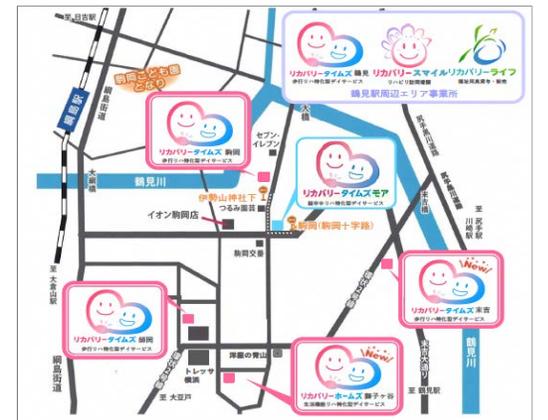
これこそが地域に専門職がいること
の真価だと弊社では考えています。



リカバリータイムズ末吉

基本情報

法人名	株式会社リカバリータイムズ
事業所所在地	鶴見区下末吉1-31-12 ルート1セイワ1F (鶴見駅より 横浜市営 13系統 綱島行「下末吉国道際」下車、徒歩3分)
開所日	R3.2.1
定員	15名
サービス提供日・時間	月～金(12/30～1/3及び4・9月の第1営業日は休業) ①9:45～12:50 ②13:50～16:55
事業所の見学	利用者の見学は随時受付。他事業所からの見学も歓迎します。事前にお問い合わせください。(担当:上西 045-633-7875)
特徴	「社会との繋がりを切らない」ことを意識して、ご利用者に対し細かなアセスメントを行い、個人に合わせた柔軟な目標設定ときめ細やかな運動メニューの作成を行っています。目標設定をする際にも、「旅行時に安全に歩行できるようにする。」「公共交通機関の利用」など具体的な目標を定めることで、ご利用者のモチベーションを引き出しています。



リカバリータイムズ末吉

【事例紹介】

ご利用する以前に、近くの商店街を散歩中
疲労感により倒れこんでしまったところを警察の方に
両脇を抱えて頂きご自宅まで送っていただいた
という経緯があるご利用者様です。

「体力をつけたい。」「もっと歩きたい。」という
ご希望によりサービス開始となりました。



リカバリータイムズ末吉

【利用者様情報】

本人様の希望:「屋外を安全に散歩がしたい」

年齢:70歳代 男性

介護度:要介護1

現病歴:脳梗塞

既往歴:十二指腸潰瘍

利用開始日:令和3年4月6日



リカバリータイムズ末吉

【利用前の様子(気持ち)】

- ・左足の麻痺が気になり外に出たい気持ちが低下している。



【現在の様子(気持ち)】

- ・杖をついてまで散歩がしたいと思わない。



- ・疲れた場合は、休んでから歩き出すという解決策を導き出すことができた。

- ・5分で腰が痛くなる、足を引きずってしまうのですぐ疲れる。



- ・散歩に行く意欲が向上した。



リカバリータイムズ末吉



【利用前の様子(身体機能)】

- ・5分歩くのが精一杯だった。
- ・足を引きずってしまう為、転倒の可能性があった。
- ・ほとんど家の中の生活で体力が低下していた。
- ・屋外歩行への抵抗感があった。



【現在の様子(身体機能)】

- ・20分程度であれば歩行可能に
- ・跨ぎ動作のリハビリ等で、引きずる回数が少なくなった。
- ・散歩に出かける意欲が向上し、休憩場所等を調べる事前準備を自ら行えた。





リハビリタイムズ末吉では、
これからも利用者様との『目線』を意識した言葉掛けで、共感を大切にしていきます。
リハビリ専門職、介護スタッフ等のすべての職員が一つになり、利用者様の目標や気持ちを
前向きにできるよう、寄り添い続けます。



リカバリータイムズ鶴見



基本情報

法人名	株式会社リカバリータイムズ
事業所所在地	鶴見区鶴見中央4-31-7マイキャッスル鶴見中央101 (「鶴見」「京急鶴見」駅より徒歩5分)
開所日	R2.6.1
定員	15名
サービス提供日・時間	月～金(12/30～1/3及び4・9月の第1営業日は休業) ①9:15～12:20 ②13:30～16:35
事業所の見学	利用者の見学は随時受付。他事業所からの見学も歓迎します。 事前にお問い合わせください。(担当:梅沢・木原 045-642-3248)
特徴	ご利用者の意思や希望、心身の状態に応じて、個別に具体的な目標を立てた上でプログラムを作成し、最適なアプローチを行っています。初回の自宅訪問時に生活環境を確認し、運動面だけでなく精神面や社会面の情報収集を積極的に行います。ご利用者の目標達成や介護度の改善に向け、ご利用者と密なコミュニケーションを図りながら、柔軟なサービス提供を行っています。





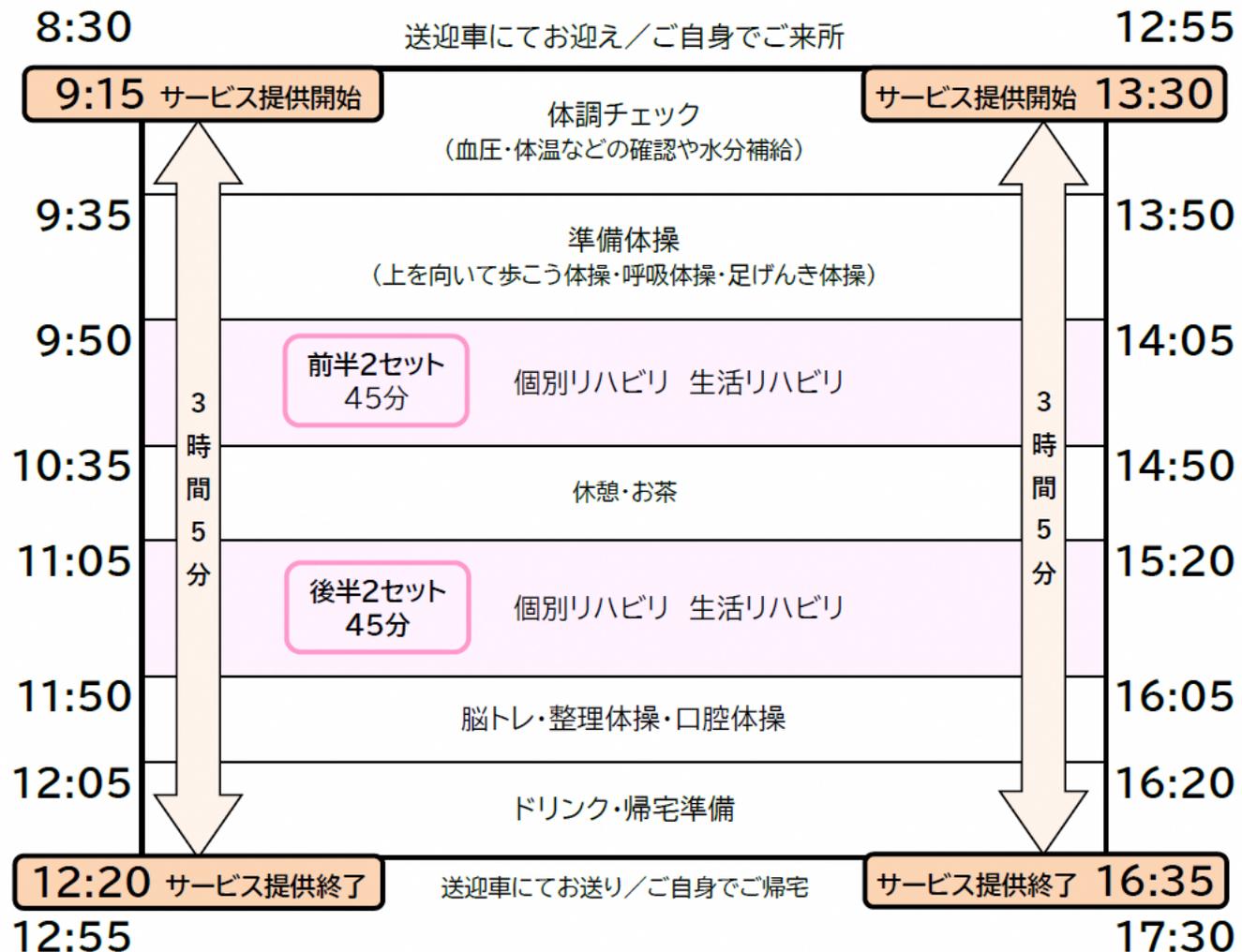
リハビリタイムズ鶴見



リハビリタイムズ鶴見 1日のプログラム

2021年10月1日より

リハビリスタッフ(PT) 2名常駐



個別
リハビリ

理学療法士が中心となって作成した個別のプログラムにあわせてリハビリを行います。お身体の状態に合わせた運動にご自分のペースで取り組んでいただく時間です。





レッドコードという器材を使用しています。



体の余分な緊張を取ります。
体を預ける事で負担を減らし、今以上に動けます。
麻痺した手足も、自分の力で動かす事ができます。

実践的な生活動作と
歩行リハビリを行います。



お客様のニーズにあわせて、できるようになりたい、今の状態を維持したい等、実際の生活を想定した生活動作リハビリを行います。
広々とした解放感と落ち着きのある空間の中で過ごしていただく事で、「今日も来てよかった。」と実感できるサービスをご提供いたします。スタッフ一同、心よりお待ちしております。



【事例紹介】

基本情報・利用までの経過

要介護2(R2年7月)、70代 男性

良性発作性眩暈症で働けなくなり早期退職。ご自宅で犬の世話等をして過ごされていたが、犬の散歩中に転倒、服薬や精神的疾患(うつ)の影響もあって無気力状態、体力低下につながっていった。

当通所介護をR2年9月に開始(週2回ご利用)。

ご本人の希望

「左肩が痛く、腕が上がりにくいので良くなりたい」

「体力をつけてしっかり歩けるようになりたい」



利用中の経過

○身体機能に関して

ショートステイ(他施設)を利用した際は車イスで過ごすことが多かった。
足の浮腫みが強くなり、歩行が困難な状態になることもあった。

○食事に関して

ムセや食べこぼし、食事量の減少があり十分な栄養が摂れておらず、体重が減少していた。
管理栄養士による**栄養相談**を実施し、痩せすぎると筋肉を破壊してしまうことを説明し、
『食べている物チェック表』の記載にて食事のモニタリング等を行った。

○嚥下に関して

嚥下機能の低下や咳き込みがみられ、飲水時にトロミを使用していた。
口腔ケアも十分でなく、誤嚥性肺炎のリスクが高い状態。
看護師による**口腔評価**を定期的にも実施していた。



リカバリータイムズ鶴見



運動内容

ご本人の希望に沿って、
それぞれの目的に応じて以下の運動を行っていただいた。

- ①上肢RC運動 : 左肩の関節可動域拡大・筋力向上
- ②下肢RC運動 : 下肢の関節可動域拡大・筋力向上
- ③平行棒内運動 : 下肢筋力・バランス能力向上
- ④自転車運動 : 筋持久力・全身持久力向上
- ⑤口腔体操 : 胸郭の関節可動域拡大、嚥下・呼吸筋の筋力向上

実施後の変化

左肩の痛みが軽減し、可動域の拡大も得られた。
下肢筋力・バランス能力が向上し、歩行時の姿勢の改善が得られた。
体力も向上し、近隣の屋外歩行が一人でもできるようになった。
体重増加し、トロミも不必要となり咳き込みも減少した。
要支援2に介護度が改善された(R3年7月)。



鏡で姿勢を確認しながらの
上肢レッドコード運動



R4年現在

食事や嚥下に関しては、目標達成。

理学療法士が身体機能の評価を行いつつ、目標を再設定しながら運動内容・負荷量を調整して運動を継続していただいている。

歩行時の安定性・持久力を更に向上させて屋外の活動範囲の拡大させることを目標に、四つ這い位での体幹訓練やルームランナーでの歩行訓練なども導入。すり足が改善傾向で、先日バスに乗って川崎まで外出できたとのこと。

今後の目標

元々ボート競技や釣りが趣味で、「夏にはボートに乗りたい」とご希望あり。ボートを漕ぐ動作の確認をし、訓練内容を検討中。

リカバリータイムズ鶴見



目標距離を確認しながらの自転車運動



ルームランナー



ベッド上での
下肢レッドコード運動

リカバリータイムズ師岡

基本情報

法人名	株式会社リカバリータイムズ
事業所所在地	港北区師岡町824 第一ネッキビル1F (綱島駅より 臨港バス 鶴03鶴見駅西口行き 明治横浜研究所前下車徒歩5分)
開所日	H31.4.1
定員	15名
サービス提供日・時間	月～金(12/30～1/3及び4・9月の第1営業日は休業) ①9:15～12:20 ②13:30～16:35
事業所の見学	利用者の見学は平日9:30～17:30受付。事前にお問い合わせください。 (担当:小木曾・渡邊 045-834-9125)
特徴	ご利用者の笑顔を引き出すことを意識し、職員と一緒に共感しながら、より良い自立支援に繋がっています。 ご利用者の個別計画は、専門職が家族やご本人の意見と普段の様子から、丁寧かつ柔軟な評価を行い作成しています。また、ご利用者の現有能力から目標を立てることで本人のモチベーションの維持向上つなげています。 ご利用者一人ひとりに合わせてプログラムを構成し、ご利用者と相談確認しながら運動を実施しています。



リハビリタイムズ師岡

【配食サービスご利用だった方が、ご自身で調理が出来るようになった症例】

- 性別 女性
- 年齢 64
- 介護度 要介護2
- 現病歴 脳出血後遺症、右麻痺
右大腿骨骨折術後
- 事業所の利用を始めたきっかけ
動くことへの恐怖心が強く、自宅からの外出が困難であった。訪問看護を利用していたが、外出のきっかけ作りとして、利用開始となった。

- 目標
 - ①マンション内の階段を杖歩行見守りで行える
 - ②食器の片づけが安全に行える
 - ③屋外不整地(坂道)を軽介助で歩ける
- ニーズ
右足の痛みの改善、
立位姿勢の改善、転倒予防、
屋外での自立歩行
- 具体的アプローチ
レッドコードを使用した身体運動
歩行練習
自転車エルゴメーター
屋外歩行



リハビリタイムズ師岡

【配食サービスご利用だった方が、ご自身で調理が出来るようになった症例】

・経過

3か月後

杖なしでの立位保持ができるようになった。

6か月後

痛みが消失し、食器の後片付けができるようになった。

1年後

痛みなく4点杖で歩行ができるようになった。

お墓参りに行き、4点杖を使用し見守りで歩くことができるようになった。。

1年半後

宅配弁当を終了、楽しみながら料理ができるようになった。

・現在は、T字杖での歩行練習を行っている。

・上肢のコントロール練習として、お手玉入れを楽しんでいる。

・階段昇降も見守りレベルとなっている。

・身体機能の改善に合わせて運動を変更し、機能維持だけでなく、ご本人様の生活に合わせたサービスを提供する。



リハビリタイムズ師岡

【転倒を繰り返していた方が、歩容改善とボタンかけまで達成できた症例】

- 性別 女性
- 年齢 84
- 介護度 要介護1
- 現病歴 左手関節骨折

両膝変形性関節症
高血圧・心肥大

- 事業所の利用を始めたきっかけ

転倒により左手を骨折し、拘縮とむくみが強く、生活の中で使用できていなかった。また、歩行のバランスが悪く、外出しなくなり、体力が落ちてきた。自宅内で転倒を繰り返しており、体力の維持・向上を目的にサービス開始となった。

- 目標
 - ①食器に手を添えて食事ができる
 - ②両手でボタンかけができる
 - ③階段昇降時に左手で支えることができる

- ニーズ

転倒予防、浮腫み・痛みの改善、歩行バランスの改善、運動習慣の獲得

- 具体的アプローチ

レッドコードを使用した身体運動

座位での下肢運動

手指を中心とした机上課題

(ボールやペグを利用して)

自転車エルゴメーター



リハビリタイムズ師岡

【転倒を繰り返していた方が、歩容改善とボタンかけまで達成できた症例】

・経過

1か月後

階段昇降・歩行のふらつきが少なくなった。

3か月後

施設内では杖なしで歩けるようになった。

4か月後

よく笑うようになった。

6か月後

浮腫みがなくなり、両手でボタンかけが出来るようになった。

左手で階段や送迎車の手すりを把持出来るようになった。

10か月後

自宅前の階段を見守りにて昇降できるようになった。

・現在は、歩行のふらつきはなくなり、自信を持って歩くことが出来ている。

・外出への恐怖心がなくなり、「散歩に出たい」「買い物に行きたい」など、自発性の向上が見られている。

・手の力を向上するため、洗濯ばさみの練習も追加して実施している。

・新たな目標は「左手の力を強くして、手首の動きが良くなって、自分で右手の爪を切りたい」。

・モチベーションを維持していけるような支援を継続していく。



リハビリタイムズ師岡

【退院後歩行に自信がなかった方が、半年で外出自立になった症例】

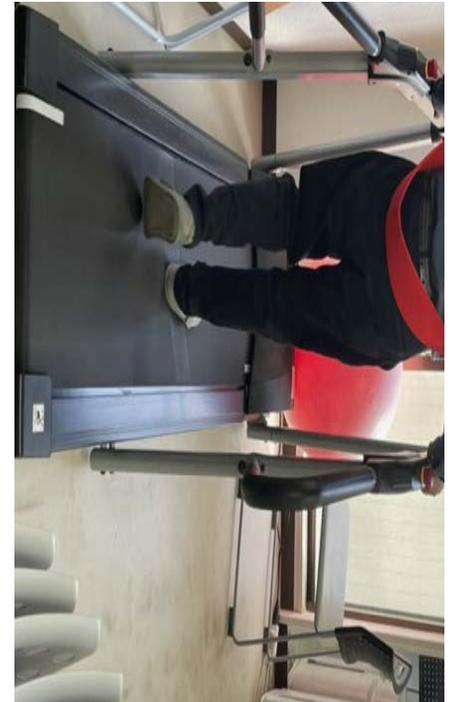
- 性別 女性
- 年齢 80
- 介護度 要支援2
- 現病歴 圧迫骨折
(硬性→軟性コルセット使用)
両肘骨折歴あり
- 事業所の利用を始めたきっかけ

圧迫骨折での入院後、不安で外を歩く機会がなく、体力が落ちてしまった。トイレに間に合わないこともある。体力をつけるようなところに行きたいとのことで、利用開始となった。

- 目標
 - ①家の周りを一人で散歩できる
 - ②家事ができる
 - ③バスに乗って外出できる

- ニーズ
下肢・体幹の筋力向上、
体力の向上、屋外歩行、
長距離歩行

- 具体的アプローチ
レッドコードを使用した身体運動
平行棒内での歩行練習
立位でのバランス練習
ルームランナー
自主トレーニング指導



リハビリータイムズ師岡

【退院後歩行に自信がなかった方が、半年で外出自立になった症例】

・経過

1か月後

約300m先のバス停までご家族の付き添いで往復歩くことができた。

自宅周辺を一人で散歩できるようになった。

3か月後

一人でバス乗車し、通院できるようになった。

4カ月後

自転車で買い物に出かけられるようになった。

一時的に下肢の痺れが増悪するも、運動を意欲的に行っていた。

6カ月後

家族に任せきりだった料理を進んでするようになった。

- ・現在は、ルームランナーで20分歩き疲労もなく、体力の向上が見られている。
- ・「買い物に出かけて5000歩歩いた」など、うれしい報告をしてくださる。
- ・来所時は自主トレーニングの確認を並行して行っている。
- ・コルセットが外れてデイサービスを卒業することを視野に入れている。



Reha Style アンフルール



基本情報

法人名	アンナペレンナ株式会社
事業所所在地	緑区鴨居町2481 第2串田ハイツ1階 (JR鴨居駅から徒歩17分)
開所日	H28.4.1
定員	10名
サービス提供日・時間	月～金(12/30～1/3、5/5、夏季休業(7月に1日間8月に2日間程)) ①9:15～12:15 ②13:15～16:15
事業所の見学	ご利用希望の方は、空き状況によりご案内させて頂いております。 事前にお問い合わせください。(担当:近藤 045-482-5385)
特徴	サービスの質の向上や自立支援に効率よくアプローチするため、介護業界ではあまりない、「OODAループ(※1)」や「デザイン思考(※2)」の考え方を取り入れています。 日頃のサービス提供方法をシステムとして定義し、職員が一つ一つの行動に目的意識をもって活動できるような工夫をしています。 (※1)OODAループ・・・「観察・状況判断・意思決定・行動」を基に、迅速な対応が求められる現場に応じた行動をするための仕組み。 (※2)デザイン思考・・・“新しいニーズ”を見つけるための問題解決プロセス。 「共感・定義・概念化・試作・テスト」から成り立つ。

自信をもって
明日への一歩を



Reha Style アンフルール



自信をもって、明日への一步を

“うれしそうに笑う、あなたに会えてうれしい”

あなたの人生の新しい1ページで私たちに会ってみませんか？
きっと笑顔があふれるライフスタイルが待っています。
あなたの幸せを願い、あなたの笑顔で幸せになれる人がいます。
一緒に笑顔を探してみませんか。

私たちが考える自立支援

Annaperenna.inc

横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2021

私たちが考える自立支援

理学療法士（PT）と作業療法士（OT）と柔道整復師（JT）によるリハビリを通して、運動・精神機能の改善・向上、生活動作の改善・継続、年齢を重ねても機能を維持し、予防から自立へそして地域社会の中で「いつまでも自宅で生活したい」を支えていく

自己実現をかなえ、自立支援を担っていくための 4つのポイント

- ①PT・OT・JTによる動作分析・行動分析・計画・考察・実施（PDCAサイクル）
- ②ピアサポートとケアの心理の活用
- ③スタッフの熱意に応える

昨年度の3つのポイントに加え

- ④能力を戦略的に発揮できるスタッフの育成

能力を戦略的に発揮できるスタッフの育成

①PDCAサイクルにOODA（ウーダ）ループを導入

②デザイン思考による「楽しい・幸せ」をクリエイト

——成果——

★コロナ禍でも2022年度の平均稼働率が91.6%

★フレイル状態にならないで「安心して訓練ができ身体機能面を維持し、新しい日常の中で皆さんがお互いにお互いを心配しながらピアサポートが叶う環境の中で精神機能面を維持していく」事ができています。

★成果をスタッフが実感することで!! 成果に甘んじず、常に進み続ける「やらなきゃいけない」が「やってみなくなる」に変わる

つまり

「お互いを尊重し、進み続けたいくなる」

①PDCAサイクルに OODA（ウーダ）ループを導入

★聞きなれない「OODAループ」って何？

「迅速な対応が求められる、現場に応じた行動をするための仕組み」

- Observe（観察）は、意識的に気づきを得られるようにご利用様をしっかりと観察します。歩行、表情、服装、乗降の動作、到着後の皆さんとの関わり、訓練中の動作分析を行ないます。
- Orient（状況判断）は、業務の中で自ら集めた情報をもとに状況を判断・分析し、ご利用様がどのような状態か臨床像を予測します。前回お会いしてからの生活状況をご本人や家族からの聞き取りを行い、問題点は無いかを考え、問題点があれば原因分析を行います。
- Decide（意思決定）は、「直観」で判断する。自分が持っている過去の経験や知識などを掛け合わせて目指すべき方向性や訓練内容を実現するために最適な手段や方法、順番などを多様な選択肢の中から選び決定し、当日の全体の訓練方針を策定します。そのため、状況判断でいつもと臨床像が違う方がいた場合の、訓練内容と全体の流れを検討し決定します。
- Act（行動）は、決定した流れを行動に移すことです。そのためには、日々業務の中でのスタッフ同士のコミュニケーションが重要です。つまり、ミーティングをたくさん行うのではなく、お互いに見通しのよい認め合う関係づくりを行っていく事が重要になります。

②デザイン思考による 「楽しい・幸せ」をクリエイト

★聞きなれない「デザイン思考」って何？

人間を中心とした「新しいニーズを見つけるための問題解決プロセス」

- 共感 (Empathise)は、相手を理解します。
- 定義 (Define)は、潜在的な課題やニーズを抽出します。
- 概念化 (Ideate)は、多くの考えを出し、概念化していきます。
- 試作 (Prototype)は、様々な可能性を試し、課題点を浮き彫りにします。
- テスト (Test)は、定義で抽出したニーズの本質を捉えて落とし込んでいるかを検証します。

このプロセスは、現実を理想に向かってより良く変えることを目的としています。私たちは日々の中でこのプロセスを自分自身に繰り返し行ない、自分自身をデザインし、デザインされている自分自身を作り上げ、私たち自身を商品化しプロ意識を高めています。

また、デザイン思考はチーム間のコミュニケーションも重要視しているため全員が発言権を持ち、役職や上下関係に左右されない意思決定のプロセスにより積極的なマインドが醸成されています。つまり、多様な意見を取り入れる力が身につく、可能性がさらに拡張され、一人では考えつかなかった視点や発見を得ることができています。そして、現在の状況をより好ましいものに変えるために、全員が主体性を持ったチームとして行動の道筋を考案し、妥当性と再現性のクオリティを高め、問題解決に有効活用しています。

Annaperenna.inc

事例紹介

想いを伝える① つくられた私

ケース 40歳代女性 脳出血 右片麻痺 失語症 感覚障害

生活 父・兄と3人暮らし 居室1階 起居動作自立 更衣・排泄以外は要介助
屋内4点杖歩行自立 毎日ベッド上でタブレットを見ているかTVを見ている

初めてお会いした日 「物静かな方です」と紹介を受け、リハビリの経過報告書にも「あまりやる気がない」と記載がありました。ただ本人が話をしようとする前に「失語症・物静かな人」という先入観からか周りの人たちが話をしてしまっている様子に気づきました。

そこで私が「本当は想いがありますよね。話したいことをゆっくり待ちますので、単語でもいいので話してください」とご本人にお伝えしたことが始まりでした。

初期の希望 「洗濯物を自分でたたみたい」

Annaperenna.inc

横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2021

事例紹介

想いを伝える②

自己実現へ 明日への一歩を

アプローチ 身体機能面は自信をもって歩くことができ、家事をイメージしやすいお身体づくりを行っています。言語・精神機能面は、自らの想いを発信することで、受け止める相手は必ずいるという信頼関係の構築を行っています。

経過 今では笑顔で訓練を実施してくださり、納得いかない時には繰り返し動きの確認や、自分でやりたいとしてあげた「床からの立ち上がり」の動作にもチャレンジしてくださっています。始めはお互いにあるこれの単語の発信でしたが、自分の想いをゆっくりと相手に伝えることができる様になり、今では文章となり細かいことはタブレットに入力してきて下さいます。また、日中は編み物をしたりできる自分を少しづつ認めてくださるようになりました。

現在の希望 「一人暮らしがしたい」

★発信や細かい変化を見逃さずに、「迅速に現場に応じた対応」をし、私たちスタッフが「楽しい・幸せ」をクリエイトしていく事で、想いをつたえることができるようになった諦めない本来のA様が今ここにいます。

Annaperenna.inc

令和元年度の事例の経過

想いを叶える 母そして妻へ

私たちが出会ったのは、第二子出産時の脳出血発症から2年が経過したある日でした。笑顔が少なく、ご家族からはせめて自分の事だけができる様にリハビリを頑張ると言われるだけで、周りの人たちからの可哀想という思いだけを受け…何のために何を頑張るのか、自分を見失っている状態でした。本当の自分の未来や希望を誰にも言うことがありませんでした。

出会ってから多角的にアプローチを開始し、2か月後初めて語ったA様の想いは「家族4人で暮らしたい」でした。そこから2年、支援は必要ですが育児・家事全般ができる様になりました。

昨年春より、意を決して夫・第1子・ご本人の三人生活が始まりました。第2子はまだ保育園への送り迎えがあるため、一緒に生活することが難しいため、小学校入学を機に4人で生活する予定です。

生活当初はがんばりすぎて眠れない日もありました。しかし、自分が切り開いた生活そして支えてくれるご主人、愚痴を話せる仲間をたくさん得ることができ、大変とおっしゃいますが、4年前とは全く違う笑顔のA様がここにいます。

Annaperenna.inc

「お互いを尊重し、進み続けたいくなる」

「OODAループ」や「デザイン思考」により、スタッフ一人一人のブランディング化を図ってきました。ブランディング化により、自分に自信を持ちスタッフが自らスキルアップを求めるようになり、リハビリの専門性を「高いプライド」として持つのではなく、「高いプロ意識」として持てるようになりました。

自分で考え自ら動くことができる「良い状態（well being）」で仕事をすることで、全員がマネジメントができる様になり離職率も低い状態が続いていきます。このスタッフの「良い状態」では、自らやってみよう因子、なんとかする因子、あいさつ因子、ありのままに因子の4つの因子が働いています。その中で「楽しい・幸せ」がクリエイトされ、お互いの「楽しい・幸せ」が伝播し、コロナ禍でもスタッフ・ご利用者様・ご家族様共に、笑顔が多い中で過ごすことができます。

今までご利用者様の身体・精神面に対して行っていた「やらなきゃいけない」が「やってみたくなる」アプローチが、実は業務上でも可能になっており、スタッフ各々の能力を戦略的に発揮できるチームができていると日々感じています。

Annaperenna.inc

横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2021

最後に

私たちが考える自立支援

幸福学の中で「幸せは予防医学」「幸せと健康の相関は高いエビデンスが認められている」と言われています。

あなたは「well being (良い状態)」ですか？

リハビリ動画のYouTubeチャンネル



アンナペレンナ株式会社



リハビリの参考になる動画がたくさんございます。

チャンネル登録よろしくお願ひします！

Annaperenna.inc

横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2021

生活維持向上倶楽部「扉」



基本情報

法人名	株式会社 NGU
事業所所在地	泉区中田東3-6-42 (横浜市営地下鉄ブルーライン 中田駅 徒歩5分)
開所日	H24.2.1
定員	12名
サービス提供日・時間	月～土(12/30～1/3) 9:10～16:20
事業所の見学	ご利用前の見学は随時受付。また、他事業所、介護従事者の見学も大歓迎。事前にお問い合わせください。(担当:川辺 045-800-6231)
特徴	「生活の営み」の継続に向け、日常生活動作・認知症ケアにおいて根拠ある介護技術を用いてかかわれるよう、パートナー全員で学び、「生活の営み支援」の中で「じりつ支援」を行っています。又、現有・潜在能力を適切に発揮できるかかわりの継続をし「出来るから」の自立支援ではなく、出来ている動作においては「過用・誤用」を引き起こさないサポートを実践する事で、緩やかな認知症の進行、機能低下や拘縮への移行の予防を行っています。その事で、サービスからの卒業や介護度改善・維持の方や、お一人暮らしの継続・ご家族とのご自宅生活の維持に繋がっているメンバーさんが多くいらっしゃる。





株式会社NGU 生活維持向上倶楽部「扉」



※個人情報保護により、掲載許可を頂いた方での事例となります。

【事例又は独自の取組み等 No.1】

- ・ 要介護2：認知症自立度Ⅱb：82歳：女性
- ・ ご家族より「生活状況の活性化」をしたいとケアマネジャーに相談し当事業所を紹介
- ・ 普段一人暮らしのため、生活意欲の向上と、認知症の進行をゆっくりにし機能低下の予防から一人暮らしの継続



旬の活動
フキ佃煮の下準備



日常生活動作内での



営み支援からのじりつ支援を



横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2021



【外での活動】

- 「畑」での機能訓練・認知症緩和プログラム
 - 地域の美化活動から地域の一員として地域(他者)交流
 - 1年を通しての「継続した活動」(田植え～門松づくり)
- など、ご自宅の外へ出る事につながる活動もしている
認知症の症状へのかかわりは、一時のかかわりではなく

「継続」しその日その時の状況を考慮してのかかわりが重要ですので、基本的に日常生活動作内での活動を行っている。

【かかわりの結果】

利用開始当初は送り出しの訪問介護が入っていたが、しばらくして準備等でじりつに向かい送り出しの訪問介護は卒業される。

現在、「扉」利用日以外に訪問介護が生活支援で入ってはいるが、お一人暮らしを継続され、近くにお住いの息子様の負担軽減になっているとのこと。





株式会社NGU 生活維持向上倶楽部「扉」



【事例又は独自の取組み等 No.2】 コロナ禍でも地域とのつながりへ！

- 要介護2：認知症自立度Ⅱb：95歳：女性
- 利用年数 8年目
- 生活につながる活動がある事業所を利用してほしいとケアマネジャーの紹介



即時記憶・近時記憶の維持は難しいことはありませんが、元々小料理屋のおかみさん



発揮できる環境が整えば、「できること」も「わかること」もたくさんあります！
パートナーは、教わることばかりです。



作ることを単発のイベント的な取り組みにしないように、他の活動につながる活動を行う。
「前に作ったよね!久しぶりだからできるかな。」
しばらく取り組んでいなかったことから自信が…。
できる力は潜在している!あとは自信が戻れば。
一つの作品に向けて、段階的に活動内で自信につなげる事で「できる」に変わった結果!!
私たちは、「自信」につながるキッカケを創造して
ください。そこから、「生活力」につなげる。



花選びもご自分で!

中途半端な活動にするのではなく、
最初から最後まで「完結」できるようにかかわる。
認知症の症状で、作ったことを忘れてしまうかもしれない…。
しかし、その過程で「できる」を私たちは見てきている!
写真を見て「私を作ったんだね」でもいいのだと思う。



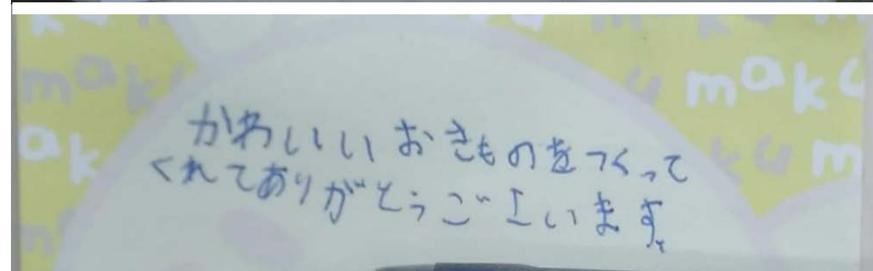
忘れてしまっても



周りが覚えている!



介護福祉士の実習生に教えながら作品を作っていく
そこから自信につながった行く



【物作りから】

コロナ禍で、地域に出での交流は以前の様にはいかなかった。
地域に出る事や近所の保育園への行き来ができなくなってしまい
「体の移動」ができないのであれば、「心の移動」につながる活動を考え
地域とのつながりを絶やさない!

子供じみた作品ではなく、「欲しい」と心が動いていただける作品を
メッセージと一緒に外に出しておくで、地域の方子どもから大人まで
手に取っていただけ、毎回ほぼ完売となる。

持ち帰っていただけただけの方の中には、直接お礼を言い外での活動時に
伝えに来ていただけたり、一言メモを残していただけたりと・・・

コロナ禍でも「声を掛けていただける」ことから地域での「存在」へ!

「できる」事で自信が
生活意欲の向上に!

潜在している力を発揮
できることが、生活への
自信にもつながって行く





株式会社NGU 生活維持向上倶楽部「扉」



【事例又は独自の取組み等 No.3】

- 要介護3：認知症自立度Ⅲα：89歳：男性
- 利用年数8年 お一人暮らし
- 生活の活性化をして欲しいが、介護サービスは使わないとおっしゃられていた。なんとか、外に出れるようにと当事業所を紹介
- ご本人、自分の人生を人のために使いたい



韓国在住時の本場キムチの作り方をパートナーに伝授



事業所裏の花壇
率先して手入れを
していただけている
このこと
で
自宅の庭の手入れの
再開にもつながった



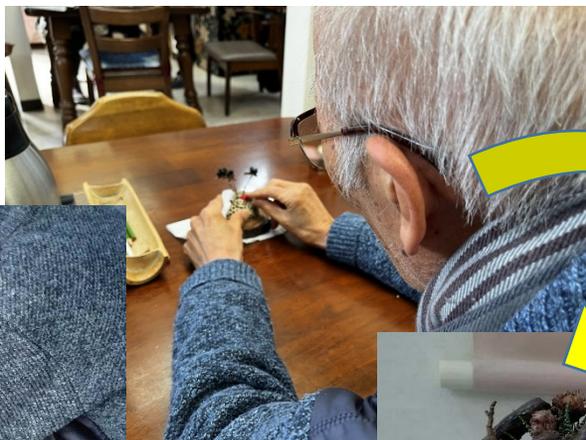
認知症の症状の進行は
見受けられているが、
ご自分の役割を
自ら創造し
活動をされている



機能訓練の一環

ただ歩くだけの歩行訓練ではなく、地域の美化活動の目的を果たしながら

畑仕事や田んぼの作り方などをパートナーに指導



室内環境を考えて色々と働かれる



夕方にご家族がご自宅にいらっしゃるが、基本的にお一人暮らしの継続ができています。

パートナーの動きを見ながら、「私がやりますよ」と来ていただき様々な場面で助けていただけている。また、介護事業所は使わないとおっしゃっていたがほぼ欠席なくご利用される。

地域のため、人のためと「役割」を見出されている。特に事業所とパートナーのためにと「環境整備」や「地域活動」に力の発揮が素晴らしい！



株式会社NGU 生活維持向上倶楽部「扉」

【事例又は独自の取組み等 No.4】 日常生活動作と認知症ケアに介護技術を！

- ・メンバーさん複数：要介護2～5
- ・基本的に他の事業所が利用につながらなかった方や他の事業所から活動性の向上や生活力の向上の希望で移ってこられた方々

じりつ支援や活動・取組みの中で、

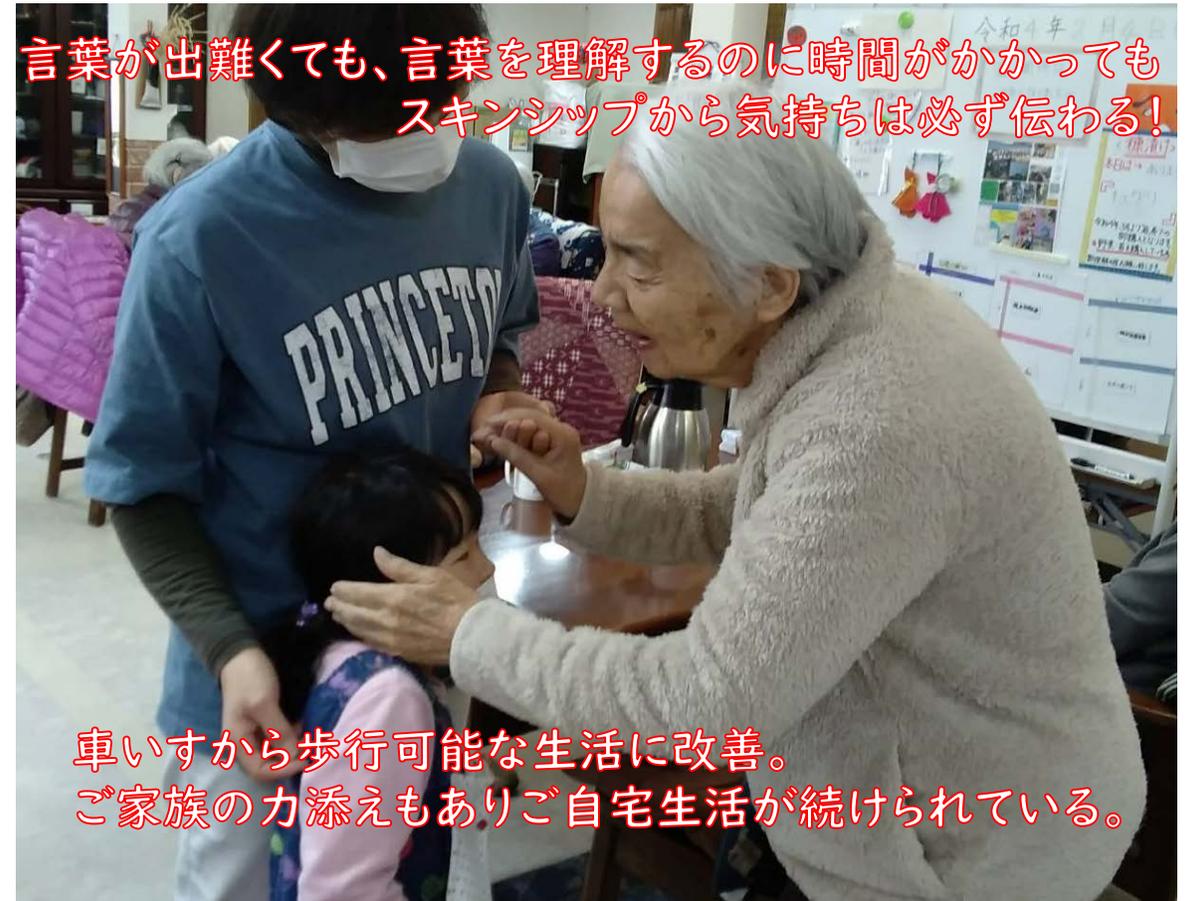
「できているから大丈夫」ではなく、その生活動作が間違っていないか？動作や生活の中で「不安や不快」は出していないか？等を常に知る努力をしている。

間違った動作や、不安や不快を少しでも軽減できるように生活動作内で根拠のある介護技術から「継続したかわり」を全パートナーで行っている。

じりつ支援から生活の営み支援への実践
「徹底した誤用症候群・過用症候群の予防」

【認知症緩和プログラムの一環!!】

コロナ禍で地域の子ども達との交流が難しいなら
パートナーのお子さんと交流ができるキッカケを作る
要介護5 認知症自立度M 女性



言葉が出難くても、言葉を理解するのに時間がかかっても
スキンシップから気持ちは必ず伝わる！

車いすから歩行可能な生活に改善。
ご家族の力添えもありご自宅生活が続けられている。

廃用症候群に目を向けるのではなく 誤用症候群・過用症候群に目を向けたかかわり

歩くために、一つの動作ができているから
大丈夫ではなく、それに連動する動作
座位姿勢・立位姿勢・靴なども見直しをおこない、



じりつ支援から生活の営み支援へ!

歩行姿勢がその場で改善

福祉用具で購入の靴から、
建築用の足袋靴へ! 値段も安い!!

靴を換えて
いただく

歩きやすさから活動量が増えた
また、歩行時に努力性が軽減

転倒なくじりつした歩行はできている。しかし、歩行姿勢に誤用が生じている

上体が起きる

70歳 男性 要介護2 認知症自立度Ⅲα 脳梗塞
知的の障がいあり お一人暮らし

普段の座位姿勢から常にかかわる

その人にあった姿勢を一人一人に提供

浅く座ることで顎が上がり、肩甲骨が開き無駄な力が抜ける。そのことで、呼吸・咀嚼・嚥下などに努力性の動きが軽減する。



～まとめ～

でき難いところにはしっかりかかわる

一般的に、脳トレやレクと呼ばれる取り組みはありません。もちろん、テレビはついていません。しかし、生活動作内での活動自体が機能訓練や脳トレ、レクになっていると思います。

93歳のメンバーさん

潜在している力を適切に発揮

室内外で「できる」環境を創造しています

怪我のリスクより生活力の向上を考えるとともに、日常生活動作と認知症ケアにおいて誤用や過用が生じないように「知識・介護技術」を用いたかかわりをし、「営み支援」へのかかわりを実践しています！

活動等から介護度の改善や長年維持されている方が多くいらっしゃいます。しかし、そのことは成果であって評価ではないように思います。評価は、あくまでも生活が少しでも豊かになり「生活の営み支援」の中で「じりつ支援」ができることだとパートナー全員で考えています。

今後、誤用・過用の予防から「生活の営みの継続」のため、どんな小さなことでも「じりつ」があるかかわりを継続していきたいと思っています。

当法人のHPです！お時間がある時にでものぞいていただけたら幸いです。



瑞穂の大地デイサービスセンター



基本情報

法人名	社会福祉法人 秀峰会
事業所所在地	港南区日野5-4-18 (横浜市営地下鉄(ブルーライン)「港南中央駅」より徒歩15分・バス停「新吉原橋」より徒歩5分)
開所日	H30.2.1
定員	12名
サービス提供日・時間	年中無休 9:35~16:35
事業所の見学	見学は随時受付。送迎も対応しております。事前にお問い合わせください。 (担当:水村・樋口・二色 045-846-9957)
特徴	画一的なサービスを提供するのではなく、ご利用者との日々のコミュニケーションの中から生活歴や得意なこと、興味があること等を探り、サービスに取り入れることで、生き生きと過ごせる時間と空間を提供し、自立支援に繋がっています。 また、ご家族の支援にも力を入れており、定期的にご利用者の家族会を開催し、「ご家族のレスパイト」「地域で認知症のご利用者を支えていく」という観点で、悩みの共有、認知症の知識の拡充につながる活動を行っています。



ほほえみ（認知症対応型デイサービス） 運営基本方針

～住み慣れた地域で暮らし続ける～

『十人十色の症状の発現のある認知症のご利用者に対し、自宅のように安心できる環境を整え、且つ専門的見地から練ったプログラムの提供を通して「個」に寄り添ったケアを行います。』

→ご利用者一人ひとりに合った過ごし方を提案することで、ご利用者やご家族の望む在宅生活が継続して送れることを目指しております。

職員一同ご利用者のお気持ちや思いに寄り添い、やりたい事・やってみたい事に耳を傾け、且つ現存能力で出来る事を把握したうえで、ご本人が自分らしく生き生きできる活動のお手伝いをしていきます。

ほほえみ(認知症対応型デイサービス)の特徴

- ①個別対応の充実(定員12名に対し職員4~5名配置)→趣味・生活歴を掘り下げての活動提供=**取り組み事例①**
- ②鍵のない空間にて、ご利用者の思いに寄り添った介護。「否定しない」が基本。
- ③送迎:お迎え時のお手伝いへの(一部)対応、通常の送迎時に乗車が難しい場合にも、別便にてご利用できるよう、調整を図る等細やかに対応します。
- ④ご家族のレスパイトにも寄与していきます。**=取り組み事例②**
- ⑤一般デイ併設のため看護師の常時配置があり、胃瘻、ストマ、バルーン、インスリン、褥瘡処置、携帯酸素使用等医療対応が必要なご利用者の受け入れが可能です。
- ⑥設備面:歩行入浴が困難な方はリフト浴にて安全な入浴機会が確保できます。トイレも専用のものがほほえみフロア内にあり、排泄時にフロアから出る必要がありません。
- ⑦馴染みのある歌を取り入れたリハビリ体操や、個別での歩行訓練実施。(PTの意見等取り入れて行います)
- ⑧一般デイにて認知症状の進行がみられる方の移行実施。→慣れた場所・顔馴染みの職員で不安解消。

・要介護3 95歳 女性

既往歴:アルツハイマー型認知症・橋本病

・事業所の利用を始めたきっかけなど

入退院を経て、認知症が進行。同じ話の繰り返しが顕著となる。下肢筋力の低下予防及び他者との交流による認知症の進行予防を目的として利用開始。

利用開始後少ししてご利用時、他のご利用者への攻撃的な言動(「何もしないでぼーっと座ってるんじゃないよ!」など)が目立つようになった。自身が「なぜここに来ているのか」がわからず、苛立ちを抱えてしまっている印象を受ける。

・目標

ご本人のパーソナリティや生活歴等を掘り下げ、利用中「自分はここにいていい」と感じていただける対応を実行する。

・取り組み内容

- ①ご利用時のご本人の言動から情報を収集しまとめる
- ②ご家族に改めて好きなことや就労歴などを細かく伺い、再アセスメントする
- ③ケースカンファレンスを行い、活動提供内容を検討・決定し、実施。またご本人の混乱を防ぐためケア方法の再統一を図った。

・結果

左記の取り組み①②から、「和裁・洋裁の仕事をしていたことがある(契約時のアセスメントではない情報だった)」「子どもの着る服は全部私が縫っていた」「仕事をずっとしていたので、何かしていないと落ち着かない」などの情報をケースカンファレンスで共有。それまでは(針刺し事故や針紛失のインシデント予防の観点から)認知症対応型ではお出ししていなかった針を試験的にお出しして、ご利用中裁縫をして頂くというアプローチを決定。

→試験的にぞうきんを縫って頂いたところ、とても集中して手際よく仕上げ下さり、その間他のご利用者への攻撃的な言動や、「何も仕事がない」という不満の訴えはなかった。

→この日以降も、ぞうきん・タオル体操で使用するタオル・台ふきんなど裁縫の活動を提供。短期記憶保持は困難な方ではあるものの、次第にご自身のここでの仕事と捉えて下さったようで、「今日は何か縫い物ないの?」と職員に尋ねてこられるようになった。他者への攻撃的な言動が全く消失したわけではないが、頻度はかなり減少。デイに来ている理由として少しご自身の中に腑に落ちたのか、表情からも不安感からの苛立ちも軽減しているように見て取れるようになった。

→これ以降も「自分が何かの役に立っている」と利用中に感じて頂けるようなアプローチを心がけている。



当事業所の取り組み事例②

家族会の開催

運営基本方針にもしている「地域で認知症ご利用者を支えていく」ことを実現するため、定期的を開催しており(コロナ蔓延下は自粛中)ご家族のレスパイト(ご利用者ご家族が抱える悩みの共有)や、認知症についての知識の拡充の一助になればと考えています。

※半年に1回ペースで開催

- ・ご利用者ご家族の介護における悩み等を話して頂き、共有する場を作る
- ・認知症及び認知症介護に関する勉強会
- ・ご利用者のご利用中の様子の見学
- ・昼食の試食会
- ・ご家族参加での合同レクリエーション実施



など、内容は固定せずアンケート結果を参考にしながら各回企画・実施しております。

※法人内の取り組みの一つとして、ウィリング横浜を会場として、

同法人内の医師、ケアマネージャー、看護師、訪問介護職員、作業療法士、言語聴覚士、デイサービス相談員、また他法人ケアプラザの生活支援コーディネーター・主任ケアマネージャーなど各職種が参集し、ご利用者ご家族の悩みや質問を各職種の職員にして頂くという拡大の家族会(介護相談会)を主催したこともあります。

結果

毎回実施しているアンケートでは

「皆さんが同じような悩みを抱えてらっしゃる事がわかり、少し心が落ち着きました」

「認知症の母に対する対応について、勉強になりました。ついつい感情的になってしまうので。」

「父がこのように皆さんと一緒にゲームをしたり、体操したりしているのが信じられません。」

など、好意的なご意見が多く、中では家族会をきっかけに、連絡を取り合うようになったご家族もいらっしゃいます。



ひと昔前に比べると、世間的にも広く知られるようになった「認知症」という疾患ですが、ご自宅で介護されているご家族に対しての支援はまだ十分であるとは言えないと感じています。認知症対応型通所介護においては、ご利用者の個別ケア・自己実現支援と同じくらい「ご家族のレスパイト」という点にも目を向け、支援をしていかなければならないと考えます。

新型コロナウイルス感染症が終息した暁には、また家族会開催を再開し、将来的には地域の皆様とも何らかのかたちで(地域の方向けの認知症についてのセミナー開催など)交わり、地域で認知症利用者を支えるという環境を作れるよう働きかけていきたいと思っております。

～住み慣れた地域で暮らし続ける～

「個」に寄り添った
ケアへの取り組み



ご家族との情報交換
を密にし、信頼関係
の構築

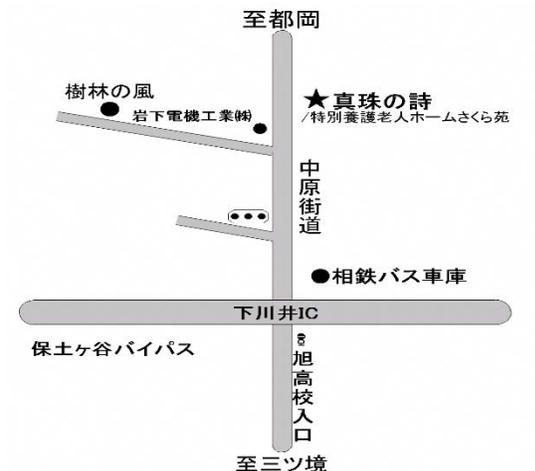


相手の思いに考えを
巡らす『想像力』を
根底に抱き、行動で
きる組織体を目指し
ていきます。

デイサービスセンター真珠の詩

基本情報

法人名	社会福祉法人 秀峰会
事業所所在地	旭区下川井町360 (相鉄線「二俣川駅」北口より「旭高校入口」行きバス終点より徒歩5分)
開所日	H8.4.1
定員	12名
サービス提供日・時間	月～日 9:35～16:35
事業所の見学	利用者の見学は随時受付。他事業所からの見学も歓迎します。事前にお問い合わせください。(担当:寺村 045-952-5566)
特徴	ご利用者が本当にやりたいこと、好きなことや得意なことをできるような活動や、ご利用者が楽しみながら、何か役割を持ち人の役に立つなど、本人の生きがいを持っていただくことを目標に活動を行っています。 また、包括支援センターと連携し、地域の認知症の方のご家族の相談に乗る機会を設けています。認知症と共に生きていく、認知症にやさしい社会に少しでも貢献できるよう日々取り組んでいます。



【取組み内容】

- **好きな事、得意な事、やりたい事**
→活動に活かす。
- 家事仕事、お手伝い
→役割を持つ。
- 楽しみを見つける
→意欲向上を目指す。



例えば、

縫物や書道、囲碁、卓球、洗濯物たたみ、洗い物、ゴミ拾い、配膳など、

利用開始前に見学される方にも写真で説明を行い、

その方に合った活動を提案しながら取り組んでいます。



【事例】

- ・ 要介護度4、70歳、男性、

「人の役に立ちたい」思いがある

- ・ 事業所の利用を始めたきっかけ

思ったことに突き進んでしまう
症状がある。

→本人の意向に沿えるような
活動の提供ができる場を求めて。

- ・ どんな目標を立て、具体的にどうアプローチしたか

チカラを発揮できる場を作る。

仕事を手伝って欲しいと
お伝えする。



・結果、どの位の期間で日常生活にどう良い影響が出て、利用者の自己実現につながったか。

利用開始4か月後。

- ・ 別荘に行かずにデイに通うようになった。
- ・ 買い物に行かず活動に参加するようになった。
- ・ 自分の役割をもち実践するようになった。
- ・ スタッフと関係性が出来、お礼の挨拶をするようになった。
- ・ 活動時にリーダーシップをとるようになった。



【事例】

- ・ 要介護度3、89歳、男性、**元料理人**

- ・ 事業所の利用を始めたきっかけ

他のデイで話し相手がない。

することが無い。

→話ができる場

することがある場を求めて。

- ・ どんな目標を立て、具体的にどうアプローチしたか

話しが出来る場を作る。

元料理人を

活かした活動をする。



・結果、どの位の期間で日常生活にどう良い影響が出て、利用者の自己実現につながったか。

利用開始3か月後。

- ・話し相手がない、

することがない、のイメージが薄らいだ。

- ・利用回数の増加(週1→週3)になった。

- ・スタッフのお手伝いを自分のやりがいと

感じるようになった。

- ・世話になった恩返しを

したいと感じるようにな

った。



【事例】

- ・ 要介護度2、83歳、男性、**趣味ゴルフ**

- ・ 事業所の利用を始めたきっかけ

自覚する物忘れがある。

その故協調が難しく参加の場が無い。

→忘れても安心できる場、
参加できる場を求めて。

- ・ どんな目標を立て、具体的にどうアプローチしたか

関係作りによる

安心感の醸成。

趣味のゴルフを

活かした活動をする。



・結果、どの位の期間で日常生活にどう良い影響が出て、利用者の自己実現につながったか。

利用開始2か月後。

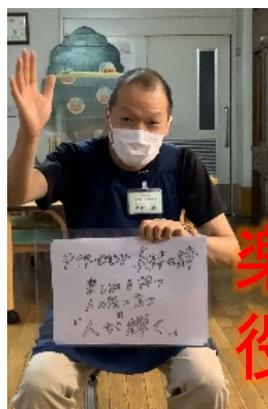
- ・ 自ら子供の頃や仕事の話をして、関係性が出来た。
- ・ 世話好きな人柄が引き出されお手伝いを引き受けるようになった。
- ・ スタッフが気が付かないところを教えてくれるようになった。
- ・ 他者にパターの打ち方を教えてくれるようになった。



【ケア方針】

- 人が輝くデイサービス
(笑顔・生き生き・強み)

→感情に働きかけるケア
→やりたいことを
見つけて支えるケア。



楽しみを持つ
役割をもつ



【特徴的な取組み等】



やりたいこと
好きなこと



得意なこと



横浜市川井地域ケアプラザ



基本情報

法人名	社会福祉法人 秀峰会
事業所所在地	旭区川井本町57-8 (相鉄線「鶴ヶ峰」駅下車神奈川中央交通バス「若葉台中央」「十日市場」「鶴間駅」行き乗車 バス停「宮の下」下車徒歩1分)
開所日	H18.12.1
定員	12名
サービス提供日・時間	月～日 9:35～16:35
事業所の見学	利用者の見学は随時受付。他事業所からの見学も歓迎します。事前にお問い合わせください。(担当:増田・藤井 045-955-1111)
特徴	「役割を感じながら生き生きと過ごせる活動」をコンセプトとし、ご利用者のその日の体調に合わせた柔軟なサービス提供を行っています。 地域ケアプラザの特性を生かして、家族会を年に3回ほど開催し、介護の悩みを共有する機会を設けていましたが、コロナ禍の現在は開催できていません。そこで、自宅での介護に少しでも役立てていただくよう、事業所での認知症介護の事例を載せたパンフレット作成し、ご家族へお渡しする等の支援を行っています。



横浜市川井地域ケアプラザ デイサービス



【サービス提供中の活動について A様の活動提供『洗濯たたみ』の効果】

- A様・要介護度3・76歳・女性
- 認知症により、自宅での留守番が難しくなってきたおり、デイサービス利用となった。
- 自宅での役割もなくなりつつあり、デイサービス利用中にも役割を持って過ごせるような支援を目標に、職員が色々試し、ご本人の残存能力を引き出す活動提供にアプローチした。
- デイサービスだけでなく、自宅でも片づけをするようになり、感謝する機会が増えましたと(ご家族様)。

・洗濯なら畳めるというA様には、洗濯畳みをお願いし、職員から「ありがとうございます」とお礼を言われ、本人はやりがいを感じながら積極的にお手伝いをして下っています。

・家族では、本人に対し細かく対応できない事もあります。デイサービスでの様子を共有し、自宅でも笑顔が増えたとのことをお話を頂く事が一番嬉しい事です。



横浜市川井地域ケアプラザ デイサービス

【サービス提供中の活動について A様の活動提供『洗濯たたみ』の効果】

【取り組みの経緯】

認知症対応型のデイサービスを利用されている方は、その人の好みや症状が十人十色違います。一斉に折り紙をしたり、塗り絵をしたりという活動が合わない方もいる為、一般型のデイサービスよりも、より個別性の高い活動を多く用意し、なおかつその活動もその人に合わせて柔軟に対応を変更してその人の今日の状態に合わせた活動提供をしています。

選択出来るかという点では、ご本人が活動を口頭で選べる方には口頭で確認して提供します。人によっては、口頭での活動が選べない方もいらっしゃいます。そういった方には実際に目の前にパズルを持ってお見せしたり、隣で洗濯畳みを始めて手伝ってくださる機会を作ったりする(ご本人から「手伝おうか」と言ってくださる環境を作る)という提供を心掛けてします。

「役割を感じながら生き生きと過ごせる活動」が介護のコンセプトです。

認知症の方は出来なくなることが多くなり、自宅で「何もしないで」と制限されることが多く出来る能力を発揮できない事もあります。「ありがとう」や「助かってます」と私も認知症になったら言ってもらえる活動に参加したいと考えながら提供しています。

横浜市川井地域ケアプラザ デイサービス

【利用者・利用者家族・地域とのコミュニケーションを図る取組について『認知症介護パンフレット』】

- T様・要介護度4・85歳・男性・認知症診断あり
- 認知症のご主人を認知症症状のある奥様が介護している。娘様は別居でたまに帰ると、母と口論になってしまう。認知症診断された病院の先生からの紹介でデイサービス利用となる。
- ご本人のケアだけでなく、家族への支援もデイサービスの役割の一つ。認知症(中重度)に関する情報をパンフレットで提供。家族の負担を軽減し、関係性の改善にアプローチした。

- 職員研修用(認知症実践者研修)の資料を基に、家族向けの認知症介護パンフレットを作成。パンフレットと説明にて介護負担が軽減され、悪化していた関係性も改善され、結果的に皆さんが笑顔で過ごせる時間が増えた。
- 別家族にもパンフレットを配布し、負担が軽くなったとの反響あり。
- 今後は地域の方への情報提供を企画中。

認知症介護に関する 家族向けパンフレット

このパンフレットは、デイサービスを利用しながら在宅で認知症の方を介護する際に、認知症の特微的な病状や対応方法を職員研修で使用する資料を基にしたパンフレットで認知症を理解して頂く事で、実際に介護する際の負担を軽減することを目的とした資料です。

すでに認知症の診断を受けた方も、まだ診断は問題ないと言われた方も、認知症なのかな?という方にもお配りすることを前提としておりますので、内容が全員に当てはまらない部分があるかもしれませんが、皆様は認知症の方を介護する際にお役に立てればという気持ちで作成しております。

家族や親族にも相談しにくいと言われる認知症介護をしていく上で、一番大切な事は「一人で悩まない事」です。

一人でも多くのご家族様、そしてご本人様が「生き生きと笑顔で生活できる」事を願っております。

様々な支援制度やサービスもありますので、不明点などはお気軽に職員へお尋ねください。

横浜市川井地域ケアプラザ
通所介護(デイサービス)作成

横浜市川井地域ケアプラザ デイサービス

OPEN
YOKOHAMA

【利用者・利用者家族・地域とのコミュニケーションを図る取組について 『認知症介護パンフレット』】

【取り組みの経緯】

私たちは地域ケアプラザという環境で働いている関係で地域の方とお話しする機会も多いかと思えます。具体的に認知症の対応などについては、年に3回開催していた家族会は利用者家族の希望者が集って介護の悩みを共有する貴重な時間です。現在はコロナ禍で家族会開催を見合わせておりますが、家族会開催を希望される家族の要望もあります。現在はその代わりになる活動や支援を検討する必要性がありました。

【課題分析と目標設定】

認知症介護において、初期症状や診断までのパンフレットはあるが、中重度に対する家族や地域への情報提供が少ないという課題がある。

デイサービス利用されているご家族を対象として、「認知症を介護する家族向けパンフレット」を作成し、家族への情報提供を行い、介護負担軽減を目標とした。

横浜市川井地域ケアプラザ デイサービス

OPEN
YOKOHAMA

【利用者・利用者家族・地域とのコミュニケーションを図る取組について『認知症介護パンフレット』】

【事例紹介 T様】 要介護度4・85歳・男性・認知症既往あり

遠方に住む娘様が、ご夫婦で認知症を患われている両親とのかかわりに悩まれていました。たまに訪問すると出来ていない事が気になってしまい、怒って色々指摘してしまいケンカになるとの相談内容でした。当デイサービスでは、娘様のお気持ちを電話でお聞きしたり、時間が合わない時にはメールで相談に乗ったり、認知症に関する情報提供するという対応も行っております。

その結果、現在ご夫婦はどうにかお二人での暮らしを続ける事が出来ております。また、娘様は一步ひいて見守る事に徹して、何かあればデイサービスやケアマネジャーが報告をするという形で、連携を強めて対応することで安心して生活が出来ているとの事です。家族だからこそケンカになってしまうというのも認知症に限らず介護ではよくある話です。そういった場面で、介護サービスの職員が伝える情報で『みんながやさしい介護』が出来ると果たす役割があると感じ、それがやりがいになると思っています。

横浜市川井地域ケアプラザ デイサービス

OPEN
YOKOHAMA

【利用者・利用者家族・地域とのコミュニケーションを図る取組について 『認知症介護パンフレット』】

【認知症パンフレットに対する反響の紹介】

B様C様 家族（認知症診断のあるご夫婦世帯・家族は近所から通って支援）

「自宅で孫が認知症の祖父や認知症の祖母に対して、ボケ試しのクイズ大会をして傷つけてしまっていたようでした。資料を読んでからは、一緒に出来ることをするようになり、以前よりも穏やかに笑顔が見られるようになりました。」

D様 家族（2世帯住宅内で別居生活・ご夫婦世帯・一般型利用中の男性家族）

「TVが好きでよく見ていましたが、最近はTVをあまり見ないようになっていました。何でも前から好きなものは変わらないとか、こちらが決めつけて押し付けていたと考え直したら、私も気持ち楽になりました。」

他にも、様々な方からのお声を頂きパンフレットも完成する事が出来ました。今後は、これから認知症の介護をするかもしれない方にも情報提供出来る活動を企画中です。

横浜市城郷小机地域ケアプラザ



基本情報

法人名	社会福祉法人 秀峰会
事業所所在地	港北区小机町2484-4 (JR横浜線小机駅 徒歩1分)
開所日	H20.4.1
定員	12名
サービス提供日・時間	月～日 9:35～16:35
事業所の見学	利用者の見学は随時受け付けております。事前にお問い合わせください。 (担当:小林、佐々木、松下、斉藤 (045-478-1133)) 見学の際、送迎も行っております。
特徴	ご利用者が安心でき、居心地の良い環境を作る「利用者中心のケア」を心がけています。ご利用者の生活歴、性格、好きなことなどの情報を引き出し、サービス提供の内容に反映させる事で、利用者の自立支援に繋がっています。 また、地域ケアプラザの特徴を生かし、デイサービスで完結させるのではなく地域の多職種連携のもと、その人らしさを大切にしています。



城郷小机地域ケアプラザ



【事例①の取組み】

- ・ 要介護3 71歳 男性 アルコール性認知症
- ・ 事業所の利用を始めたきっかけ

交番に「自分が何者だかわからない」と何でも尋ねるようになり、地域包括支援センターが介入。ご本人は入所を希望されていて入所されるまでの1週間デイサービスをご利用になることになる。

・ 目標

ご本人は『自分が誰かもわからない状態』の為、入所までの1週間はご本人が落ち着いてお過ごし頂けるような居場所を作る。

・ どうアプローチしたか

・ご本人の精神状態を考えた結果、ありのままのご本人様を受け入れる。その為に職員はコミュニケーションを図る機会を多く持った。その人の生い立ちや、趣味、嗜好を聞きながらその人らしさを大切にした。そしてご本人様の興味のある話題や、過ごし方を提供した。

・結果

入所先では午前中からこんな所には居られないと帰宅願望が見られご自宅に戻られる運びとなった。

その後の担当者会議では以前は「入院したい」「どこかに入れてほしい」との訴え頻繁に聞かれたが、現在ご本人は入所の必要性は感じていないと話されていたとのこと。アパートの大家さんは退去してほしいとの希望があるが、ご本人の意思を考えるとすぐの入所は難しいためしばらくデイサービス、訪問ヘルパーの支援で在宅生活を継続していくこととなる。以前は訪問ヘルパーに対し暴言が酷かったが、デイサービス利用以降は落ち着いている。本人はデイサービスを仕事と思い「仕事のあとの一杯はおいしいよ」と話されていたとのこと。

その後もデイサービスをご利用いただいでいて、在宅生活を続けることが出来ている。認知症の症状出現が変化し、対応が難しくなった時期もあった。地域ケア個別会議を実施し、地域包括支援センター、介護支援専門員、港北警察、区役所の生活支援課、ヘルパー、福祉サービス、大家さん、デイサービス相談員、看護師が会議に参加して課題(服薬調整)と支援方法を共有し現在も落ち着いた生活を送ることが出来ている。



城郷小机地域ケアプラザ



【事例②の取り組み】

- 要介護3、77歳、男性、アルツハイマー型認知症
- 事業所の利用を始めたきっかけ

3年前からアルツハイマー型認知症を発症し、2年前に一般型通所介護をご利用になったが、ご本人と合わず利用中止になった。そこからサービスを利用されておらずご家族のレスパイト目的で利用となった。

見学時の様子は中核症状として記憶障害や、失語があり、周囲の人には話の内容が分からない部分があった。話出すと止まらない様子が見られた。

- どんな目標を立て、具体的にどうアプローチしたか

元々の情報として会話するのがお好きという情報があった為、ご本人が満足するまで話して頂き職員はご本人の話を否定せずに傾聴をする。

ご利用者同士の会話の中では職員が介入し他者とのコミュニケーションを円滑に図れるようにする。

入浴の希望もありお誘いしてみる。

・結果

ご本人にとって過ごしやすい環境となりご利用に繋がった。週1日から利用を始め、現在は週5日ご利用になられている。

しかし課題が出てきた。ある日脱衣室へ入ることに嫌悪感があり脱衣室の暖簾を見ると『俺はここにはいかないよ』と明らかな拒否が見られるようになった。ご本人の意思を尊重し入浴を見合わせる事が増えていった。

ご本人にとっての不快感を解消し、安心安全に入浴していただけるようにカンファレンスを行い、統一したケアを行ってみることにした。

具体的な統一方法は1. 暖簾を外してみる。2. 『少しずつ』というフレーズで入れたことがあった為、「少しずつ」を加えた声かけを試みる。3. 誰もいない静かな環境でご案内してみる。4. 同性職員が誘導をする。

しかし結果は入浴いただけることがほとんどなかった。再度カンファレンスを行い統一ケアを行ってみた。

1. 入浴する時間を思い切って来所後に変更。2. 完全個室対応。ご自宅では脱衣時どのように声掛けされているかご家族にお聞きし、3. 『洗濯するので脱ぎますよ』とご自宅と同じ声掛けを実施してみた。

・結果

ご本人様安全に穏やかにご入浴することができるようになった。

城郷小机地域ケアプラザ



【法人理念】

1. 人間が主体である

- ・ご利用者が常により高い自己実現に向かって生活が出来る環境をつくる

2. 連帯の輪を無限に広げていく

- ・地域社会との交流を通じて、あらゆる人が支えあって共に生きる地域連帯の実現を目指。そして連帯の輪を世界に向かって広げていく

3. 日に日に新たな今日を創造していく独自の取り組み

- ・この世に生を受け人は人生の旅路を歩む。やがていつの日か旅立ちの日がおとずれれる。人生の一日一日がその人の心に叶うものであることを願い、私たちは支援活動を続けます

城郷小机地域ケアプラザ



【独自の取り組み】

わたし達は、認知症の方の自立支援には
まずほかの誰でもない唯一の存在である
ということ

「その人らしさ」を大切に、
諦めないケアに取り組んでいます。



【具体的な取り組み】

得意なことや好きなことを探
し、やりがいや役割をもって
いただけるように個別な活
動を行っています。

共に過ごす時間の中で
ご利用頂いている方に
とって居場所となるよう
に関わっていきます。

生活歴など詳しく聞き取
りを行い、安心して過ご
せる環境を整えています。

BPSDは利用者様からの
サインと捉え、アセスメン
トを行いご本人にとって
本当に必要なサービスを
提供していきます

統一した対応を行い
ご本人を取り巻く環境
を整えています。

横浜市小菅ヶ谷地域ケアプラザ



基本情報	
法人名	社会福祉法人横浜市福祉サービス協会
事業所所在地	栄区小菅ヶ谷3-32-12 (JR根岸線 本郷台駅より徒歩6分)
開所日	H25.2.1
定員	12名
サービス提供日・時間	月曜～土曜(12/29～1/3は休業) 9:30～16:30
事業所の見学	利用者の見学は随時受付。他事業所からの見学も歓迎します。事前にお問い合わせください。(担当:西尾 045-896-0471)
特徴	同じ施設内に、認知症対応型通所介護と通所介護の2つのサービスが併設されており、双方のお客様が頻りに交流するなど、自由に行動できる環境を整えています。お客様の自信と意欲を取り戻せるような支援や、地域イベントへの参加を通して、デイの活動を地域へ発信する等の地域交流を積極的に行っています。



小菅ヶ谷地域ケアプラザ「はまなす」



平成25年2月1日開所 「はまなす」の目標

- 「できない」と決めつけず、可能性を見出だす努力をする。
- 一人一人に役割を持っていただき、感謝の言葉を絶えず伝えて、自信を回復してもらおう。
- デイルームだけに留まらず地域との交流をもち、住み慣れた街で暮らし続けていかれるようにする。

小菅ヶ谷地域ケアプラザ「はまなす」

水やり



部屋装飾



洗い物



修繕



掃除



一人一人に、出来ることは無数にあります。役割を持つことは生きがいになり、やる気を引き出します。

また、常に「ありがとうございます」「助かります」と感謝の言葉をかけて、皆さんが自信を回復できるように心がけています。

本人が笑顔になることで、家族も笑顔になります。

小菅ヶ谷地域ケアプラザ「はまなす」



社会の一員としての
役割

認知症になっても、社会とのつながりを維持するために、ケアプラザのお祭りでは、「駄菓子屋」を出店しました。

買い出し、値段付け、屋台作りすべてを一緒に行い当日は売り子も担っていただき、近隣の人たちや子どもたちと交流をしました。

お孫さんを連れて買い物に来る方もいらっしゃいます。

「もう何もできなくなった」と思っていた家族に「まだこんな事ができるんだ」と実感してもらえる時です。

小菅ヶ谷地域ケアプラザ「はまなす」



お祭りの売り上げの一部を社会福祉協議会に寄付をしました。

皆さん、活動自体は覚えていませんが、「楽しかった」「嬉しかった」「役に立った」という満足感や達成感は心に刻まれます。

「はまなす」は全員が主役です。

小菅ヶ谷地域ケアプラザ「はまなす」



千円を募金しようとした人に、「もったいない」と言ってしまうハプニングもありました（笑）

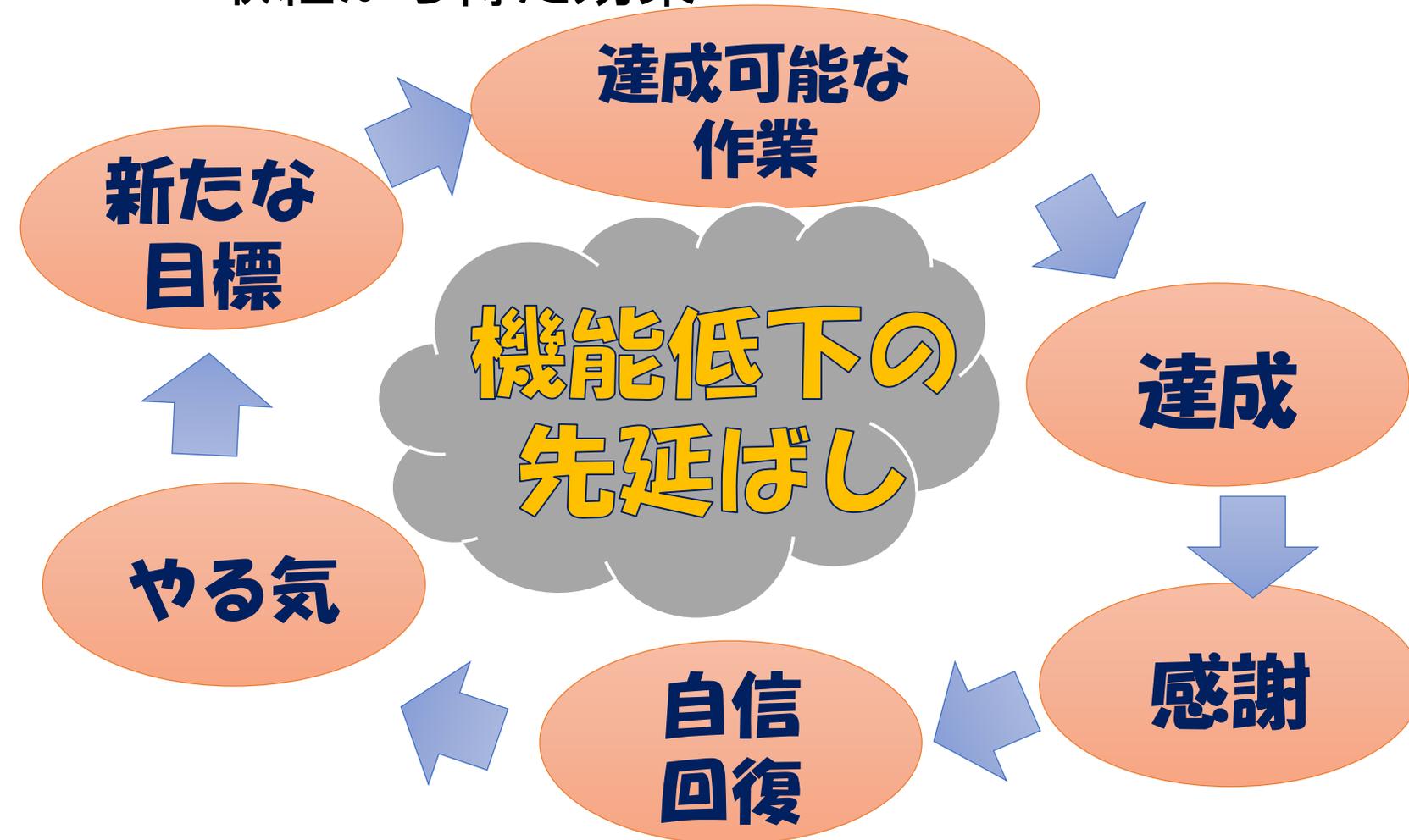


社会参加の一環として、お祭りの他に、コロナ前までは、街頭募金も行っています。

街頭に立ち「お願いします」と声を出すことは、とても勇気のいることですが、この日を楽しみにして、一年間貯金をして募金して下さるご家族もいらっしゃいます。

小菅ヶ谷地域ケアプラザ「はまなす」

・取組から得た効果



「はまなす」は一人一人の病気の特徴を捉え、成功体験が出来るような声掛けや個別性のある対応を行い、各人が達成感を持てるようにしています。

やってあげるとは、その人の可能性を摘んでしまいます。

「やろう」という意欲を引き出し、認知機能の低下を先延ばししています。

デイサービスふるさと萩丸

基本情報

法人名	株式会社 ふるさと
事業所所在地	泉区和泉中央南1-38-16 (横浜市営地下鉄「立場駅」より徒歩10分)
開所日	H28.4.1
定員	12名
サービス提供日・時間	月～日(12/31～1/3は除く) 9:15～16:20
事業所の見学	利用者の見学は可(随時)受付。他事業所からの見学も歓迎します。事前にお問い合わせください。(担当:津田 045-410-8682)
特徴	ご利用者本人にとって得意なことや好きなことをしていただくため、レクリエーションを特定の内容に絞らず、本人と話し合いその場で決め、自身で考え取り組むという自立心を養う支援を行っています。 利用者やスタッフがゆっくりと話し合う時間、話ができる環境づくりを大切にしています。



デイサービスふるさと萩丸



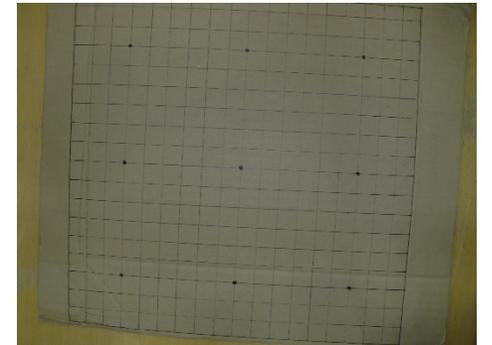
【事例又は独自の取組み等】

- 介護度1、91歳、男性 A様
- 事業所の利用を始めたきっかけ
→ご夫婦2人暮らしですが、ご主人様、奥様共に少しずつ物忘れや勘違いが顕著になり、一緒にいると夫婦喧嘩が始まり、陰悪な関係になる恐れが出てきました。
ケアマネージャー様より「持っている能力を活かして、自信を持って生活が続けられるように」とふるさと萩丸のご利用が始まりました。
また、A様のご近所にお住まいのB様が、ふるさと萩丸を既にご利用されていた事も、利用を始めたきっかけとなりました。

デイサービスふるさと萩丸

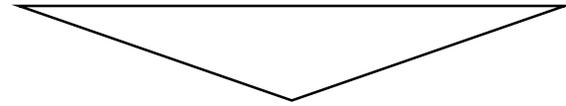
【事例又は独自の取組み等】

- ・どんな目標を立て、具体的にどうアプローチしたか
→まず、A様とB様の関係性を確認すると、良好な関係で、お互いにお知り合いという事が分かりました。
そこで、目標は「A様とB様が仲良く過ごせる時間を作る」としました。
スタッフを交えてお話しをすると、「囲碁」が共通の趣味であることが分かりました。
ふるさと萩丸には碁石はあったのですが、碁盤が無く迷っていると、A様が「じゃあ作るよ」と段ボールを切って、手作りの碁盤を作成して下さいました。



デイサービスふるさと萩丸

【事例又は独自の取組み等】



食後に「囲碁」の時間を設けて、A様とB様が囲碁を楽しむ時間が始まりました。勝負が着くところが特に楽しい様子で、「勝ったー」とA様は喜ばれていました。

しかし、囲碁を始めて半年が過ぎる頃から、囲碁は「やらない」とA様もB様も話される事が出てきました。



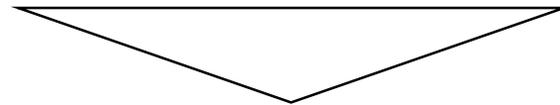
デイサービスふるさと萩丸

【事例又は独自の取組み等】

「囲碁」をやらなくなった理由をスタッフで話合った結果、
「A様もB様もルールが曖昧になってきて、勝敗が分からない様子」
という意見が出ました。

そこでまた目標を考え直すために、A様が何に自信を持っているで
あろうか、スタッフで話し合いました。

そこで、「ゲームやレクの時に声がよく出ているから、進行係も
向いているかもしれない」という意見が出ました。



デイサービスふるさと萩丸

【事例又は独自の取組み等】

新たな目標を「ゲームの進行係を無事に務め、自信を持つ」にしました。
ことわざカルタの時間では、上の句を読む係になってもらいました。
また、神経衰弱や絵合わせカルタの時は、順番の確認やルールが
上手く進行できているかの確認をしてもらう役割を担ってもらいました。

現在(利用開始から1年半)は、周りのお客様を上手く巻き込みながら
進行係を行っている事に自信が持てている様子で、進行係を「やるよ」と
自ら言って下さっています。

ゲームと一緒に参加されているお客様も楽しそうな様子です。
A様は、ご自宅以外でも、楽しい時間を作る事が出来ています。

